群馬大学附属図書館におけるLAN接続CD-ROM検索システム (LASSIE) の開発

Development of a LAN-Associated CD-ROM Searching System (LASSIE) in Gunma University Library

若林 克己* 川島 一* 橋本登美雄* 北村 武夫* 三森 健吉* 関 篤*

群馬大学附属図書館

Wakabayashi K., Kawashima H., Hashimoto T., Kitamura T., Mitsumori K., and Seki A. : Development of a LAN-Associated CD-ROM Searching System (LASSIE) in Gunma University Library. *Igaku Toshokan* 1991 ; 38(3) : 260-269.

A local area network (LAN) was constructed at the Showa Campus of Gunma University where the School of Medicine, University Hospital, Institute of Endocrinology, and College of Medical Technology are located. A CD-ROM server (CD-server, Meridian Data, Inc., Scotts Vally, CA, USA) was connected to the network with a Sony Quarter L as a network file server for multi-users on campus. As the majority of users had NEC personal computers, the software for the operation of the CD-server was developed to work with NEC as well as IBM equipment. After coordination of the software for the CD-server, SilverPlatter CD-ROM, and netware server in cooperation with MARUZEN, USACO Corp., and TOYOCOM, we finally succeeded in developing a system which we termed LASSIE (LAN-Associated Service System for Informational Exploration). This system, which can include NEC personal computers, is the first trial in the world, and is to be expanded to cover 3 campuses of the University, and also to cover more data-bases within a year. Trials to simplify the software, procedure, and equipment, and how funding was procured are also described.

I. はじめに

図書館サービスの中で情報検索の占める割合は年々増大し、利用者の要求にどう対応するかが重要な問題となって来ている。わが国では学術情報センターや日本科学技術情報センターあるいは

DIALOGのオンライン情報検索等の利用が一般的であるが、検索費用の面で研究者にとっては、かなりの負担となっている。最近いくつかのデータベースがCD-ROM化され、利用に供されており、群馬大学では昭和63年度の予算で購入し、平成元年4月から供用を開始した。しかしスタンドアロンのパソコンによる検索は、年代ごとにCDを交換しなければならないことに伴う手間とCD損傷の危険性、順番待ち、特に医学部では開館時間中に図書館に来ることの困難等使用上いくつかの問題が生じ、利用者側から改善の要望が出るようになった。一方市場にはCD交換の手間を不要

* Katsumi WAKABAYASHI, Hajime KAWASHIMA, Tomio HASHIMOTO, Takeo KITAMURA, Kenkichi MITSUMORI, and Atsushi SEKI : Gunma University Library. 4-2, Aramaki-machi, Maebashi 371, Japan.

にするCDチェンジャーやCDサーバーも現われ、先行大学では図書館内に敷設したTHIN-ETHERにCDサーバーを取り付けて数台のパソコンで同時に検索を可能にする試みが行われ、平成2年度の全国国立大学図書館協議会総会の研究集会に大阪大学、東京工業大学の附属図書館から発表された。我々群馬大学では、キャンパスLANにCDサーバーを接続させることによって、キャンパス内の研究室からCD-ROMの利用を可能にすることを計画し、平成3年5月に完成し、実験期間を終え、6月より一般への共用を開始することになった。このシステムを我々はLASSIE(LAN-Associated Service System for Informational Exploration)と言う愛称で呼ぶことにした。

このようなシステムに関してはハード、及びソフト面のノウハウは勿論であるが、システム構築のための費用が、群馬大学ではどのような予算的サポートによって可能となったかと言う事実もまた重要な情報と言えよう。本稿ではLASSIEの完成に至る経緯の詳細と、群馬大学の固有の、しかしこのようなプロジェクトに対して極めて効果的な予算措置について報告したいと思う。

II. CD-ROM導入からLASSIEまで

昭和63年9月、本学の部局長会議の席上、前川正学長から教育研究学内特別経費が本年も使用可能になったと言う報告と、その使用方針が説明された。即ち、1) 細分化はしない、2) 学部間の持回りはしない、3) いくつかの学部にまたがった、または大学全体に関するプロジェクトであること、4) 将来に形として残るようなものであること、5) 科学研究費や概算要求で要求できるものではないこと、と言うことであった。

教育研究学内特別経費は国立大学全てに与えられるものであり、その使途に学長の裁量を強く影響させることのできるこの予算は、とにかくこれま

で国立大学運営上の欠点と言われた「貧乏な学長」をいくらかでも解消すると共に、学長の力量の試される予算でもある。上記のような本学学長の方針は、数ある国立大学の中でも極めて特色のあるもので、大学全体のレベルアップにつながるプロジェクトに対して重点的資金投入を可能にするものであった。

当時、新任の附属図書館長として部局長会議に出席していた筆者の一人若林は、附属図書館の全学的性格から図書館のサービス機能の充実とこの予算との結び付けに思い至り、その場で前川学長に図書館からの要求も可能であるか否かを質問し、もちろん結構であるとの返事を得た。この時脳裏には登場したばかりのニューメディア、CD-ROMがターゲットとして浮かんでいた。図書館では早速CD-ROM読み取り装置としてのパソコンとCD-ROMドライブ、ハードディスク(HD)、そして購入すべきデータベースを調査し、大学図書館としてニューメディアに対応することの重要性を論じた要求書を提出した。

前川学長は、この年の教育研究学内特別経費を二分して、本部のある荒牧キャンパスでのLANの設置と、図書館でのCD-ROM導入に使用することを決定された。思えばこの二つの用途は、後のLASSIEの誕生を暗示しているのである。

群馬大学には三つのキャンパスがあり、三つの図書館がある。このような施設の導入については3館を公平に扱わなければならない。CD-ROMの製品にはIBM対応の外国製品と、NEC等に対応する日本製品とがあり、結局ハードとしては各館にIBMコンパチブルのSANYO-AXパソコンとCDドライブ、そしてNEC用のCDドライブを設置し、ソフトは各キャンパスの希望に沿うよう決定した。特にMEDLINEのような継続物は、二年目以降の継続のための予算をキャンパスでサポートできることを確認してから決定した。このため、この費用で購入できた大型のデータベースは1985

年からのDIALOG ON DISKのMEDLINEと朝日新聞データベースに留まった。昭和キャンパスでのMEDLINEの提供は非常な反響を呼び、順番待ちに不満が出、翌年から医学部の費用でパソコン1台を追加、またSilverPlatterのMEDLINEが1966年以降をカバーし、費用の点からも有利であるため翌年度から切り替えられた。

CD-ROMの導入は好評を持って迎えられた、特に医学部のある昭和キャンパスにおいては2台のパソコンは殆ど常時使用され、午後の時間帯では順番待ちを必要とした。他のキャンパスでは教官の協力を得、授業にCD-ROM検索によるレポートの作成などを取り入れて戴いた。その後荒牧キャンパスの本館では、教育学データベースERIC、心理学データベースPsycLITが関係教官達の研究費拠出で導入された。図書館報でも毎号キャンペーン記事を掲載して、周知に努めた。

このような努力と成果は学長の認めるところとなり、次の年度における教育研究学内特別経費の一部を図書館のAV機器およびソフトの充実に使用することが認められた。残りの部分は工学部のある桐生キャンパスにLANを敷設することに用いられた。これらのLAN敷設はLASSIEの将来の発展に対する重要な布石となった。

平成2年度の全国国立大学図書館協議会総会に出席した我々は、前述のような東京工業大学、大阪大学のCDサーバーに関する発表を聞き、その上を行く構想としてLANとCDサーバーとの接続を次の目標に定めた。それまでLANの有用性にやや疑いを持っていたが、CDサーバーという目玉を得、昭和キャンパスにおけるLANの敷設と連携させて、教育研究学内特別経費に対する図書館のプロジェクトの策定に取り掛かった。幸い若林は当時昭和キャンパスの情報処理センター分室長を兼任していたので、昭和キャンパスにおけるLAN敷設の要求をキャンパスにある医学部、内分泌研究所、および医療技術短期大学部全体の要

求として提出することを各部局に認めて戴き、図書館側としてはLANに接続すべきCDサーバーと、同年文部省から工学部分館に設置することを認められたG4ファクシミリと平行して荒牧、昭和のキャンパスにもISDNタイプのG4ファクシミリを設置して高速ファクシミリネットワークを作る、と言うプロジェクトを組み合わせた図書館情報システム構築という予算要求を提出した。この両者が学長から認められたことによって、LASSIEが誕生することになったのである。

Ⅲ. LASSIEの構成と問題点およびその解決

昭和キャンパスにおけるLANは図1に示すように、図書館の存在する医学部臨床研究棟Aと周辺の3棟はETHERNETケーブルでつなぎ、やや遠距離の医療技術短期大学部と附属病院病棟は、間に光ケーブルを用いた。同時にLAN敷設とLASSIEの計画をキャンパス内の各講座、研究室に通知し、LANとの接続口となるウォールジャックの取り付けの希望の有無と位置を調査した結果、図書館を除き、医学部47、附属病院3、内分泌研究所11、医療技術短期大学部21、合計82箇所の設置の要求が出された。

これらLAN関係の工事が進行しているうちに、平成3年3月にMeridian Data Inc.のCDサーバーが医学部分館に到着した。このCDサーバーにSONYのQuarter L PCX-300をネットワーク・ファイルサーバー（ネットワークウェアサーバー）として接続し、それまでスタンドアロンで使用していた2台のIBMコンパチブルの、SANYO AXパソコンMBC-17JH40をTHIN-ETHERで接続して、サービスを中断することなく新しい形式に移行させた。この段階では他の大学のシステムと変わらない。LANへの接続に当たってはLANに異常が発生した場合にも図書館内のネットワークを運用できるように考えてはどうかという東洋通信機の

図1. 昭和町キャンパスLANの構成

アドバイスもあって、図2のようにデータリンクブリッジをネットサーバーと図書館内のパソコンの間に挿入し、それをLANのウォールジャックを介してキャンパスLANに接続するという形を採った。

CDサーバーをLANに接続して利用することでの最大の問題は、このシステムが、もともとはIBMマシンを対象にしてできているということである。これまでのように図書館の一室に限られているような小規模なネットワークでは、IBMまたはそのコンパチブルマシンを購入すれば全く問題ないのであるが、我々の計画のようにキャンパス全体の研究室にその範囲を広げると、研究室にあるパソコンは圧倒的にNECないしはそのコンパチブルマシンであり、それらの器械が使用できなければ意味が無い。我々は、CDサーバーを扱っている丸善、CD-ROMを扱っているユサコ、LANの専門業者である東洋通信機の三者を集め、NECにも通用するシステムへの改善を要請した。幸い、SilverPlatterのCD-ROM検索ソフト

SPIRSは、NEC用のバージョンができ上がったばかりで、東京工業大学からの情報では一応使用に耐えることが認められていたし、東洋通信機のLAN通信用のPCボードもNEC対応の製品のあることがわかったが、CDサーバー側のソフトにはIBM対応のものしかなく、実際に試してみると、NECでは14台あるうちのひとつのCDドライブにしかアクセスできないことが判明した。この点を丸善に指摘し、丸善からMeridian Data社にNECのパソコンにも対応するCDサーバーコントロールプログラムの作製を依頼するよう要請した。このプログラムのバージョンアップは平成3年4月に完成し、業者間の共同テストでオペレートすることが確認された。

平成3年5月初旬にLANの敷設は完了し、若林の研究室に引き込まれたウォールジャックと使用しているNECコンパチブルのパソコン、EPSON PC-386VRとを接続して実地テストが行われた。このパソコンには、2MBのEMSとハードディスク(HD)が装備されており、東洋通信機のNEC

図2. 図書館医学部分館内のネットワーク構成

対応PCボードCentreCOM SIC-98をスロットに装着し、まず東洋通信機の技術者がTCP/IPとNetWareの双方をサポートするようにソフトウェアをフロッピーディスク (FD) にインストールした。更に丸善の技術者により、CDサーバーのコントロールプログラムと、ユサコの検索用ソフトSPIRSをHDにインストールしてから装置を立ち上げ、図書館内のCDサーバーにセットされているMEDLINEの検索を試み、すべてのプログラムが正常に働くことが実証された。

IV. 必要とされたハードウェア、ソフトウェアと費用

スタンドアロンでの検索に必要であったパソコンはSANYO AX MBC-17JH40がそうであるように、1 MB程度の内部メモリとHD (これは最小のサイズで良いが) が必要であった。そのためLANに接続する場合にもNECマシンでは内部メモリが640KBであるため、EMSとHDDの双

方を装備したものでテストした訳である。

一方このシステムに必要なソフトは、前述のように、CD-ROM検索ソフト (ユサコ)、CDサーバーコントロールソフト (丸善)、及びLAN接続用ソフト (Allied Telesis 社製、東洋通信機扱い) であるが、検索ソフトは無料で貸与されることになった。ファイルサーバー運用ソフトであるNovell社のAdvanced NetWareとMeridian Data社のCDサーバーソフトはCDサーバー購入予算に含まれている。

従って、LAN敷設開始の時点で計算されたLAN接続のための研究室負担額は次のとおりである。この際ウォールジャックからパソコンまでのトランシーバークーブル5 mは共通費用でまかなわれる。

1. PCボード (NEC対応PC-SIC N980T) :
¥99,800 (IBM対応ボードは¥109,800)
2. CentreNET PC/TCP ソフトとインストール料金 : ¥22,500
3. EMS ¥20,000～30,000

4. HD ㊦100,000

その後平成3年4月の時点では、PCボードは㊦49,800 (IBM㊦59,800)と値下げが行われたが、やはり全てを備えとすれば、かなりの負担額となる。LAN加入者にすべてこのような条件を要求することが妥当であろうかという疑問を我々は抱いた。できるだけ多数の研究者、学生にCD-ROM検索を利用して貰うには、できる限り単純な(すなわち安価な)設備条件が必要である。あまり多額な費用を要求したのではせっかくIBMオンリーからNEC対応にした意味がなくなってしまう。

そこでシステムの単純化を試み、最低の費用で検索を可能にするにはどうするかを検討することにした。

V. 構成の単純化：ソフトウェアの整形によるハードウェアの省略と自動化

LANの機能をすべてカバーするソフトとは別に、研究室からのCD-ROM検索のみを可能にする最も単純なシステム構成を考えてみた。この単純なシステムは研究費などの点で、できるだけ安価に検索をしたいという利用者や、複雑なネットワーク操作の手順は苦手というビギナーに対して役立つものである。

まず、前述の3業者によって若林の研究室にインストールされた、ソフトシステムを動かしてみると、

1. FDから立ち上げる。
2. LANに載せるプログラムが作動して、図書館のCDサーバーに付いているファイルサーバーに接続する。
3. HDへ移行する。
4. ファイルサーバーの仮想ドライブに切り替える。
5. ここでログインする。

6. 検索のためのSETUPバッチプログラムを起動させ、諸条件をサーバーにセットする。

7. ドライブをHDに戻し、SilverPlatter の検索プログラムSPIRS.EXEを始動し、検索を始める。

8. 終了したらファイルサーバーのドライブに切り替え、ログアウトする。

と言う順序を踏み、ステップ3以後は手動で行わなければならないことがわかった。

業者が違うために連携のとれていない一つの例として、ログインしなくても検索ができるし、この際ログアウトの必要もない、という事実がある。これは管理上具合が悪いし、同時に2人以上が行った場合トラブルが生じる可能性があるという。必然的にログインを通り抜けねばならぬようにするため、筆者の1人、川島はSPIRS.EXE関係のプログラムをファイルサーバーに移動させても検索が可能かどうかを検討した結果、2台のパソコンから同時にアクセスしても移動させたSPIRSは作動することが確かめられた。このことはHDに格納されていたSPIRS.EXEの部分が不要となることを意味し、HD省略の可能性が生まれた。勿論NEC用のSPIRSはIBM用のSPIRSとは別のディレクトリNECSPIRSに収納されている。また、ファイルサーバーに接続したあとNECSPIRSのディレクトリに入り込んで、SPIRSを起動し、終了したら自動的にログアウトするバッチプログラムNECSPIRSを作製し、ファイルサーバーに格納した。ネットワークのシステムでは、管理者からのメッセージを利用者に伝えることができるので、ログインの後でメッセージをディスプレイに表示させるようにセットした。

さて、上記の作動をするように作られたFDの方の内容を見ると、

ルートディレクトリ：MS-DOSのシステムとCONFIG.SYS, AUTOEXEC.BAT

ディレクトリPCTCPには41個のファイル、ディ

```

CONFIG.SYS
device=a:\pctcp\ipcust.sys
device=a:\pctcp\ifcust.sys
device=nwpc9801.sys /d:cdnetrom /u:14 /s:1 /k:01372-519-507672e5-95
lastdrive=t
files=20
buffers=15
device=meleem.sys
device=print.sys

AUTOEXEC.BAT
prompt $p$g
path=a:\network; a:\pctcp; a:\bin; a:\dos; a:\
date
time
ipx98
net3jpc
ethdrv98

SETUP.BAT
set cdnetserver=1
set cdnetdvr=cdnetrom
mscdex /d:cdnetrom /l:g /e

```

図3. 最初のCONFIG.SYS, AUTOEXEC.BAT, SETUP.BAT

レクトリNETWAREには、CFGIPX.EXE, NET3JPC.COM, IPX98.COM の3個, そのサブディレクトリPUBLICには、COLORJPC.EXEとJPC\$RUN.OVLの2個のファイルが入っていた。

CD-ROMの検索にはTCP/IPに関する部分は必要ないはずである。CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATプログラムの内容を覗いてみると、図3のようになっていた。

念のために東洋通信機のプログラムを自分でインストールプログラムに従ってインストールしたものと同く、TCP/IPの部分を省略するように書き直した。即ち、FDからディレクトリPCTCPを削除し、CONFIG.SYSでのDEVICE指定を削除した。更に NETWARE のサブディレクトリPUBLICを削除し、一方HDに存在するSPIRSプログラムを取り除き、SETUP.BATとそこに指定されているプログラム MSCDEX.EXE 及びCONFIG.SYSに指定されているNWPC9801.SYS, NWDRIVER.SYSをFDに移動させると、全てがFDに納まり、HDは事実上必要なくなってしまう

た。ドライブの数や番号を整理して、最終的には図4に示すようなプログラムを作製した。この際、FDのファイル構成は図5のようになった。

このFDをセットして立ち上げると、CONFIG.SYS, AUTOEXEC.BATの順に実行されて行くログインも自動的に行われる。使用者はサーバーからのメッセージを見た後でどれかキーを押すだけでよく、ビギナーでも問題なく使用できる。SPIRSの使用法即ち検索の方法さえわかっていたらよく、これまで図書館で利用しているとおりである。

次の問題は内部メモリーの拡張である。LAN接続のためのプログラムの常駐のためにどうしても300KB程が使用され、SPIRSのプログラムを動かすためには更に512KB以上が必要なので、640KBの内部メモリーを持つ機種では不足になり、1MB以上のEMSを装着することが必要であるという結論になった。

上記のような手直しにより、最小限内部メモリーの拡張のためにEMSを備えるだけでLASSIEの利

```

CONFIG.SYS
device=a:nwpc9801.sys /d:cdnetrom /u:14 /s:1 /k:01373-519-013672A3--6
device=melemm.sys
device=print.sys
shell=a:\command.com /P a:\
lastdrive=p
files=20
buffers=15

```

注 /u:14 はCDサーバーのドライブ数、/s:1 はCDサーバの数、/k: 以下にある数列はアクセスするためのキーナンバーである。これについては後に述べる。LASTDRIVE=P はドライブCからCDサーバーが始まるため最後がPとなる。

```

AUTOEXEC.BAT
echo off
prompt $p$g
path=a:\netware;a:\
ipx98 >nul
net3jpc >nul
set cdnetservers=1
set cdnetdvr=cdnetrom
mscdex /d:cdnetrom /l:c /e >NUL
echo off
CLS
q:
LOGIN HORMONEAC1
NECSPIRS

```

注 このAUTOEXEC.BATは最初のAUTOEXEC.BATとSETUP.BATをひとつにしたものである。/l:c はCDサーバーの最初のドライブ番号がCであることを示す。/e は内部メモリを拡張して使用することを示している。q: はファイルサーバーの仮想ドライブ番号である。ここでユーザー名とともにログインする。ここでファイルサーバーからのメッセージがあれば、画面に表示される。メッセージを読んだ後キーを叩くとサーバーに格納されているバッチプログラムNECSPIRSが起動され、サブディレクトリに入り込んでspirsを実行する。終了すると自動的にログアウトして最初のドライブに戻る。

図4. 最終的なCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BAT

ルートディレクトリにあるファイル

MS-DOSのシステム

CONFIG.SYS	システムデバイスなどの設定登録
AUTOEXEC.BAT	自動立ち上げでファイルサーバーに接続 条件設定、サーバーのバッチ始動
PRINT.SYS	プリンター使用のためのシステム
MELEMM.SYS	EMS使用のためのシステム (MELCO社のEMS)
MSCDEX.EXE	
NWPC9801.SYS	CDサーバー使用のためのシステム
NWDRIVER.SYS	

—ディレクトリNETWAREにあるファイル。

NET3JPC.COM

IPX98.COM

注 このファイル構成はパソコン側のFDのものである。SilverPlatter MEDLINE検索のためのソフトspirsその他は、ネットワークサーバーに入っているので、それを使用する。

図5. CD-ROM検索のみ行うときのファイル構成

用ができることになった。

しかし、色々試みているうちに、面白い事実が判明した。その事実とは、内部メモリー640KBのマシンでも、HDを装備していると、EMSを使用しなくてもSPIRSのプログラムが動くということである。言い替えれば、パソコン側としては、EMSかHDのいずれか一方を備えていれば、SPIRSを使って検索ができるのである。しかしながら、TCP/IPにも対応できるようにインストールしたFDを使用してみると、より多くの内部メモリーを使用してしまうため、HDによるカバーは効かなくなり、EMSも必要となることも判明した。

VI. 供用の開始まで

研究室からの試行の成功によって、供用の具体的な手順に取り掛かった。平成3年6月7日に、説明会を開いた。この説明会の形式は、全申し込み者に周知徹底が必要なため、全員を一時に集めることをせず、2時間の間に会場に来れば良いことにして、その間に出席をチェックしながら5回の説明とデモンストレーションをし、同時に説明書と、登録ユーザー名、パソコンの機種と装備の状態、TCP/IPソフトの希望の有無を記入するようになっている申込書を手渡した。結局不参加者は6名にとどまった。この申込書を医学部用度係で取りまとめ、PCボードとTCP/IPソフトの一括購入を行った。最初のウォールジャックの申し込みからPCボードの申し込みに至る部局別の内訳は表1に示すとおりであった。この中には図書館分館の分3台は含まれていない。ウォールジャックの取り付けを申し込んだ82箇所のうち66箇所が即座に機能開始を望んでおり、そのうち56箇所は現在費用が多少掛かっても検索のみでなく、完全なLANの機能を装備したいと望んでいることがわかった。検索だけであればよいという利用者は10箇所であった。一方パソコン機種に関しては、

表1. LAN加入申込内訳

	ウォールジャック 取付け申込		PCボード申込 TCP/IPソフト			合計
			要	不要	計	
医 学 部	47	IBM	1	0	1	33
		NEC	26	6	32	
附属病院	3	IBM	0	0	0	2
		NEC	2	0	2	
内分泌研	11	IBM	1	0	1	10
		NEC	7	2	9	
医療短大	21	IBM	1	0	1	21
		NEC	18	2	20	
合 計	82		56	10	66	66

IBMまたはそのコンパチブル機種は僅か3台に過ぎないことが判明し、NEC対応を積極的に推進したことが的を得ていたことになる。心配した内部メモリーの拡張やHDも、既に装備されていたり、この際装備するという利用者が非常に多いことは、LASSIEに掛ける期待の大きいことを示すものであろう。

LAN加入とTCP/IPソフトの組み込みを促進することになった大きな要因は、費用の点であろう。前述のように必要な費用の概算は、平成2年の秋に行われた試算と比べると、50,000円安となったことは、朗報であった。

現在CDサーバーは既に稼働しているため、PCボードの装着がなされ次第利用が開始される。

我々の作製した簡便、自動ソフトは、TCP/IPソフトの組み込みいかに関わらず使用できるものである。そこで、各利用者の持参するMSDOSのシステムの入っているFDにプログラムをコピーし、ユーザー名を書き込めば、CDサーバー検索専用のFDができ上がり、即使用できることになる。

VII. 最後の問題

IBMとNECのパソコンをカバーするLASSIEのプロジェクトはわが国、いや世界でも最初の試みであるため、プロジェクトが進むに連れてさまざまな問題が生じてきた。特に Meridian Data社のCDサーバー用のNEC対応ソフトはまだプロトタイプと言っても良いし、ユサコのNEC対応検索ソフトSPIRSにも問題があり、近く新バージョンがでるとのことである。ソフトを提供している日本の代理店、丸善やユサコの方々がNEC対応ソフトに今後充分に精通されるよう期待する。

さて、我々が最後に突き当たった問題はCDサーバーのソフトである。

我々に丸善から最初に提供されたNEC対応の Meridian Data社のソフト（バージョン4.0）では、各ユーザーにキーナンバーを割り当て、CDサーバーにアクセスするには、キーナンバーをCONFIG.SYSの段階で提示しなければならないことになっていた。しかもこのキーナンバーには限りがある（例えば20個）という仕組であった。

ユーザーの多い場合、これは非常に困ったことである。それ以前に提供されたIBMのみに対応するソフト（バージョン3.0）ではキーナンバーなしの形で“UNLIMITED WORKSTATION ACCESS”が可能であった。我々は丸善に善処方を要請し、丸善で調査の結果、ソフトウェアのバージョンアップと時期が重なったため、混乱が生じたことがわかった。即ち Meridian Data社で

は、CDサーバーのハードウェアとソフトウェアの両者を同時に購入する場合にはバージョン3.0のように制限無しのワークステーションからのアクセスが可能になっている筈なのであるが、ソフトのみを購入する場合に提供するソフトを間違えて納入してしまったというのであり、問題は解決した。

VIII. LASSIEの成長と発展

平成3年6月現在、LASSIEの利用範囲は本学の昭和キャンパスのみに限られており、データベースもMEDLINEのみである。今年度の計画として、我々は3キャンパスのLANを接続することによって、学内のどこからでもMEDLINEの検索を可能にすることを考えている。桐生キャンパスの工学部には生物工学科があるため、生命科学に関する文献の検索についての要望が特に強く、荒牧キャンパスには教育学部、教養部があって、やはり同様の文献検索を必要としているからである。キャンパス間LANの接続に加えて、更にCDサーバーを追加することによって、現在荒牧にある図書館本館でスタンドアロンで使用されているERIC, PsycLIT, 及び近々発売される医学中央雑誌を学内からアクセスできるようにすることも今年度の計画である。将来は工学関係のデータベースをもカバーしたいと思っている。本学のようにキャンパスの分散した大学ではキャンパスLANとCD-ROMとのカップル即ちLASSIEは学内の情報資源の共有に大きな役割を果たすべきものである。

稿を終るに当たり、本学にLANの敷設を可能にし、図書館情報の重要性を理解され、LASSIEの誕生に資金を提供頂いた群馬大学前川正学長に敬意を表し、熱く御礼を申し上げるとともに、LASSIEの誕生に熱心に協力頂いた群馬大学附属図書館医学部分館の館員諸氏に感謝する次第である。このシステムの構築には、丸善、ユサコおよび東洋通信機の方々の緊密なるご協力無しには成し遂げることは不可能であった。深く御礼申し上げますとともにこの協力関係を他の大学、機関にも拡大されんことを願ってやまない。

写真1.